

第 23 回支援連絡調整会議 議事録

日 時：2015 年 5 月 12 日(火) 10:00~12:00
場 所：下矢作地区コミュニティセンター
出席者：15 団体 21 名（内オブザーバー1 団体 2 名）
進行：酒井（事務局）
文責：三浦（事務局）

1. 事務局連絡(10:00~10:05)

➤ H27 年度 登録団体一覧表の共有

今年度の団体登録情報更新を行っている。提出いただいた団体からの情報を記載した一覧表を更新した。また、更新作業の中で活動を終了、又は現地事業を終了した団体が複数あったので報告する。

◆事業を終了した団体、現地事務所閉鎖の団体

- ・ 陸前高田市仮設住宅連絡会:H27 年 3/31 日で事業終了
- ・ NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン:H27 年 4/30 日で現地事務所閉鎖
- ・ 県南パーソナルサポートセンター:H27 年 3/31 日で事業終了
- ・ NPO 法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン:H27 年 3/31 日で東北事務所閉鎖
- ・ 公益社団法人助け合いジャパン:H27 年 3/31 日でいわて三陸復興のかけはし事業の同団体委託が終了。H27 年度 4 月からは岩手県政策地域部政策推進室内に設置の「いわて三陸復興のかけ橋推進協議会」が事業を引き継ぐ(同協議会として新たに登録済み)

◆H27 年度内に事業終了予定のある団体

- ・ みちのく衛生の会:H27 年 8 月ごろに活動終了を予定

以上、今後の活動の参考までに報告する。なお、一覧表については会議内での共有用資料につき、団体内での共有は構わないが、個人名が記載されているので取り扱いにはご留意いただきたい。

➤ 支援概況調査への協力について

2014 年度の支援概況調査を 4 月から実施している。回答いただいた団体のご協力に感謝。記入に時間がかかる様式で提出が遅れる旨の連絡をいただいている団体もいるため、提出期日を延長した。まだ提出いただいていない団体には協力をお願いしたい。集計が完了次第、結果を共有する。

- 各団体の発行物(紙媒体)のポータルサイトへの掲載について
 昨年度は陸前高田市仮設住宅連絡会が発行していた「連絡会通信」をデータ化し、毎月まちづくりプラットフォームのポータルサイトに掲載していた。紙媒体を発行している団体に関しては、連絡会通信同様に掲載可能なので、希望があれば事務局までご連絡いただきたい。

2. 活動報告(全体)(10:05~10:20)

- ・全参加団体より活動報告および共有事項や告知があれば報告
- ・質問あれば適宜。各団体 2~3 分程度で報告

※以下発表順、発表者敬称略に記載

※発表の順番は第 23 回支援連絡調整会議参加者名簿に準ずる。番号は名簿の番号を記載

◆活動報告

1	NEC ネットズエスアイ(ひまわりハウス)／村上	連休期間中は 5/2~10 日まで休み。11 日から通常営業を開始。塩田さんの後任が 13 日から着任予定。後で各所へ挨拶に回る予定。
2	いわて生活協同組合／池田	ふれあいサロンを継続中。今後はバスボランティアが 5/24(日)に高田に来る予定。
3	もっちいと森の仲間たち／望月	畑作りが忙しくなってきた。下和野公営住宅で畑開拓、八起プロジェクトから連絡があり、モビリアでも畑作りの手伝い、また、西下公営住宅からも連絡をもらい、住宅近くに畑を開墾している。今日もキャベツとサニーレタスの苗をもってきている。必要な方、所があれば提供するので連絡してほしい。なお、今日は午後に長部小仮設にプレゼント予定。
4	陸前たがだ八起プロジェクト／蒲生	モビリア仮設を中心に、災害公営住宅や自力再建、防集が今年頻繁になってくると思うので、小友地域、広田半島のコミュニティづくりにも活動していきたい。
5	岩手大学三陸復興推進機構 心のケア班／佐々木	最近カウンセリングの数が増えてきて、ステージが変わってきたと感じる。支援者のメンタルケア、傾聴講座等実施している。
6~7	大船渡地区被災者相談支援センター／柁屋	4月の相談件数は110件。H25年度から毎月100件を超える相談が来ている。4/25(土)には住宅再建相談会を市内で開催。午前は市役所で11組14人、午後は竹駒コミセンで12組15人が来場。相談会は6/7(日)にも高田で行うので、住民に周知いただきたい。
8	陸前高田まちづくり協働	5/9に長部地区でまちあるきを開催。長部地区コミュニティ推

	センター／黄川田	進協議会と協働センターとの共催で、子ども達を対象に地域の歴史と防災を学ぶことをテーマに実施した。
9 ~ 10	遠野山・里・暮らしネットワーク／佐藤	5月の連休に大阪3生協からボランティアが100人入り、大槌、高田等に分かれて市内観光やボランティア活動をした。市内では箱根でのイベントの手伝いや田んぼの手伝いなど。他、「ほっとひといき」というリフレッシュツアーを、6月から公営住宅中心に実施予定。
11	ハマトラ 横浜フットボールネットワーク／篠原	活動は昨年度と同じペースで続けている。7/4(土)に横田小体育館でフットサル交流会を予定。大学・高校生メンバーを中心とした神奈川での発信の場づくりを、かながわ311ネットと一緒に続けていく予定。
12	パクト／萩原	子ども支援では、4月は調整時間としていたみちくさルームが、5月から4地区で本格的に開始。復興サポートステーションは連休中に大勢来たわけではないが、平日に団体が入ったり、多い時で250人くらいのボランティアが入っていた。普段はそこまで多くない。二又交流センターは、年度初めは人の行き来がなく、お客さんが少なかったが、暖かくなるにつれて予約が入ってきている。
13 ~ 15	陸前高田市復興支援連絡会／佐藤	望月さんから報告のあった西下公営住宅の畑の件、自治会長から話があり、住民の中で畑をやりたいという人がいたので、畑を借りた。農機具がないので八起プロジェクトに連絡したところ望月さんにつながり、協力してもらった。高齢独居が7~8人入っているが、彼女たちを外に出すことができた。「できたら収穫祭を、団地だけでなく近所の人も呼んでやりたい、気楽にやりたい」とのコメントもあり。まちづくりプラットフォームのネットワークでつながりができて、協働で作業ができたということで、ご報告する。
16	高田大隅つどいの丘商店街／山本	5/4、ベネッセのイベントでしまじろうが商店街に来た。仮設商店街同士のつながりでイベント企画に繋がったが、それが子どもたちの笑顔につながり良かった。参加は約60人。今後は6/7(日)に三周年記念イベントを開催する。もうすぐ使用期限を迎えてしまう店舗もある中でどうしていくか、苦慮している。ほか、お知らせとして5/24(日)に未来商店街でフリーマーケットを開催、出店者を募集している。物売る以外にも団体の活動報告にも使える。関心のある方は山本がつなげるので、ご連絡いただきたい。

17 ~ 18	難民支援協会／石井	<p>昨年の3月に現地事務所を閉じてから、引き継ぎ先団体のフォローアップをしていた。また、東京で何ができるか、風化防止、高田に関わり続けてもらうには、あるいは現地が必要としているものを東京で伝えるには、ということを検討している。7/11(土)に立教大学協力のもと、「陸前高田 NPO キャラバン in 東京」を開催する。陸前高田に関わってきた人たちをつなぎとめる一助になればというイベントの、東京側のコーディネートを担当。今日夕方の実行委員会で詳細が決まればまた皆さんにお知らせしたい。</p>
19 ~ 20	陸前高田市民生部被災者支援室／岡山	<p>被災者に対する相談業務、住宅再建の補助金支給を担当。最近の傾向として、防集の住宅が完成、移転が進んできた印象。ほか、先月下和野市民交流プラザがオープンした。</p>
21	陸前高田市社会福祉協議会／安田	<p>下和野災害公営住宅に市民交流プラザが完成。1F ピロティに相談コーナーと交流スペースの2区画。4/22にオープンした。現在は、月～金の10:00～15:00開設で、生活支援相談員や地域包括ケアコーディネーターがいて、相談などに対応している。ほか、畑開きのお手伝いや生活支援相談員の戸別訪問が公営住宅で本格的に開始した。棟ごとにも悩みが違う。いろんな形で入っている団体も増えてきているようなので情報共有しつつ、仮設に残された人もストレスを抱えているようなので、通常地域福祉と繋げながら進めている。</p>

3. 活動分野ごとの討議・意見交換(グループ議論)

<1G 地域・コミュニティ>

➤ 意見交換

- ・ 活動内容の確認等、特に社協からもいろいろ話を伺った。
- ・ 地域に入った人、仮設から出た人の情報がなかなか取れなかったという話が共有された。中でも、仮設だけ、公営住宅だけに特化した支援をする時期ではなく、地域への支援をしていく時期に現在きている。
- ・ 外からの視点で、高田の人は発信が少ないのではないかと意見有り。何が必要なのか、今度のキャラバンでも情報発信できたらいいのではないかと。
- ・ 仮設が良かったという再建者もいるが、移転先のコミュニティに参加してほしいという意見が出された。

<2G 子ども・教育／子育て・女性>

➤ 意見交換

- ・ 地域団体への訪問の必要性を再確認。実際に顔と顔を合わせて話をする中で、本音(困っていること等)を聞くことができた。
- ・ これから学校の統合や仮設からの引っ越し等の動きの中で、子どもたちのサポートをどうしていくかを議論。学校にもカウンセラーはいるが、子どもを中心とした活動をしている団体同士連携をしていくことが今後は必要なのではないか。
- ・引っ越しをした後の子どもたちの様子は、女の子たちは色々なツール(携帯等)を使って住むところが変わってもつながっているようだが、男の子はあまりうまくいっていない様子。
- ・引っ越しした子どもにどのようにイベントの周知を図るか?学校や地域を通すことが必要。
- ・人の動き(引越し)によって、ひとのつながりが何度も壊れてしまう。
- ・未満児、保育所、保育園に通っている子どもや保育士の声も聞いてみたい。
- ・この会議の場でのつながりも生まれてきている。

<3G 商工・観光・産業・その他>

➤ 意見交換

- ・ 仮設店舗の今後について議論。
→話が大きく、行政の今後のまちづくりの方針や正確な情報を把握していないと議論ができないので、次回商工課をテーブルに呼びたい。
- ・ 地域資源の発掘や観光客の誘致で、ガイドマップを作ろうという話が出た。既存の媒体を集めて、今どういう状況かを確認し、全域ではなく、例えば「矢作町の生出」のように、エリアを絞って詳しく作ったものを外の人や地域の人に知ってもらうツールとしての活用を狙いたい。
- ・ 次回は身近にあるマップを集めて、ガイドマップ作りの議論を継続する予定。

【次回の開催日程】

- ・ 第24回支援連絡調整会議
6月16日(火)10:00~12:00 ※会場及び詳細は別途連絡